

月の主題 《うれしいね ・ 喜びあう》

月のねがい 思いを言葉にしてもらうことで、安心し、満たされる
風や空気の冷たさ、日の入りの早さなどを感じ、冬の訪れを感じる
イエス様が私たちのためにお生まれになったことを喜び合う生活をする

12月の聖句：ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。 イザヤ書9章5節



毎日がクリスマスだったらいいのに・・・と子どもの頃はよく思っていた。それくらい特別に感じられたクリスマス。もちろん我が家がクリスチャンホームであったこともあり、クリスマス時期に流れる讃美歌はどれこれも思い出深い。

2023年締めくくりの12月です

保護者のみなさま、
どんな1年を過ごされましたか？
新たに迎える2024年はどんな年でありたいですか？

少子化と言われる中、子どものいる生活は実はとても貴重なものです。

何故なら**未来を生きる人たち**と毎日共にあるからです。

子どもたちの未来も、私たちの未来も毎日の積み重ねの先にあります。

子どもたちと共に、月の主題である
「**うれしいね**」「**よろこびあう**」をたくさん見つけ、**感謝しあう12月**を過ごしたい
ものですね！

クリスマスは素敵なお話がたくさん溢れている。ロシア民話の「しんせつなともだち」は、園でも良く読み聞かせをしている絵本の一つ。

食べ物が少なくなる季節に手に入ったにんじんを、登場する動物たちが自分だけで欲張らずにお腹を空かせているかもしれない友だちところへ贈り物として持っていく。最後には、一番初めのうさぎの元へそのにんじんが返ってくるというストーリー。

どの動物たちにも「**雪の降る日は大変だ。このにんじんはだれかにあげよう**」という台詞がある。

困っている誰かに心を向ける・・・人を思いやる・・・という気持ち、行為。

実はそれこそがクリスマスマインドでは・・・。

短いストーリーの中に溢れる優しさ、思いやりをご家庭でもぜひ読み味わってほしい。

メリークリスマス！

犬童れい子